

研究・調査報告書

報告書番号	担当
43	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
Joint Association of alcohol and folate intake with risk of major chronic disease in women. 女性における飲酒と葉酸摂取状況の組み合わせと慢性疾患との関連	
執筆者	
Jiang R, Hu FB, Giovannucci EL, et al.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Epidemiol 2003; 158: 760-771	
キーワード	
飲酒、循環器疾患、慢性疾患、修飾効果 (疫学)、葉酸	
要 旨	
<p>背景</p> <p>飲酒は、葉酸の腸管からの吸収や肝臓への取り込みを阻害する。葉酸の減少は発がんリスクを高めるだけでなく、ホモシステインの上昇を介して循環器疾患の発症リスクを上昇させる。しかしながら飲酒と葉酸摂取状況を組み合わせて、循環器疾患やがんなどの慢性疾患との関連をみた研究は少ない。</p> <p>対象と方法</p> <p>看護婦を対象とした Nurse's Health Study は、1976年に開始され、全米11州の30～55歳の女性121,700人が登録されている。本研究は1980年の本研究への参加者のうち循環器疾患やがんの既往のない83,929人を対象とした。葉酸摂取量は、半定量食品摂取頻度法により、食品から摂取されたものとサプリメントから摂取されたものの合計が計算された。同時に飲酒量もエタノール換算で求められた。本研究の観察対象は、致命的または非致命的な循環器疾患またはがんの発症、及びその他の非外因性の死亡とであり、1996年6月まで追跡された。飲酒量(0、0.1-5、5.1-10、10.1-30、>30g/日)、葉酸摂取量(<180、180-299、300-399、400-599、≥600、μg/日)はそれぞれ5区分に分けられ、年齢、喫煙、BMIなどを調整した多変量解析が行われた。</p> <p>結果</p> <p>観察期間中に10,666人の新たな慢性疾患の発症が観察された。大量飲酒群(>30g/日)では、循環器疾患発症リスクの低下と発がんリスクの上昇が相殺され、慢性疾患全体とは有意な関連を認めなかった。葉酸摂取量が最小の群では、循環器疾患のリスクが有意に高かったが、がんや慢性疾患全体とは関連を認めなかった。両者を組み合わせると、基準群(葉酸摂取量400-599μg/日かつ非飲酒)に比し、大量飲酒かつ葉酸摂取量最小の群では有意に慢性疾患の発症率が高かった(多変量調整相対危険度, RR: 1.36、95%信頼区間, CI: 1.10-1.70)。また飲酒による慢性疾患発症リスクは葉酸摂取によって低減されることが交互作用の検討から示された。大量飲酒群では、葉酸摂取量が最小の群において、循環器疾患・がんの双方とも最大のリスクを示したが、循環器疾患のリスクは葉酸摂取量180-299μg/日の区分からすみやかに減少するのに対し、がんのリスクは葉酸摂取量に比例して直線的に減少していた。大量飲酒と低葉酸摂取の慢性疾患発症リスクへの影響は、若年女性(60歳未満)でより顕著に認められた。</p> <p>結論</p> <p>適切な葉酸摂取は女性の主要な慢性疾患の一時予防として重要であり、特に1日2杯を超える飲酒習慣を持つ若い女性にとっては有効と考えられた。</p>	